

SOTO 禅 インターナショナル

発行日 1995年12月1日 発行人 松永然道 編集責任者 福島伸悦
発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 千361埼玉県行田市下中条1619-2
Tel. 0485-57-0999 Fax. 0485-57-2347 振替 00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

第 6 号



第4回ハワイ・北米檀信徒大会アロハ・ランチョン (ワヒアワ龍仙寺3世・4世のグループ祭太鼓の演奏)

主な内容

巻頭 ハワイ開教総監 松浦玉英
特集 ・ハワイ・北米檀信徒大会報告
・ハワイ曹洞宗寺院&開教師
寄稿 ・宗門教の諸問題について SZI会長 松永然道
海外トピックス ・前角師本葬LAで厳修!
・北米開教師会議・寺庭婦人会開催

・南米別院本堂落慶法要円成!
・横山泰賢師アイオワへ
国内インフォメーション ・ワン・ポウル・ネットワーク通信第3号発刊
・「宗教者平和の集い」懇親の夕べ

SZI日より

ハワイの布教

ハワイ開教総監 松浦玉英



好轉し、宗務庁より開教総監部への補助金下付、一九九〇年、開教より実に八十七年目開教師に対する助成金なるものを下付され海外開教師も漸く当局より認められた感があると感無量。

ハワイ開教の始まった一九〇三年より一九四一年の第二世界戦争勃發までの三十八年間は、移民一世への布教の徹底、二世への仏教と日本語教育の最も盛んだった時代であり仏教も大いに興隆した時代であった。移民時代の開教の苦難は言語に絶し、曹洞宗最初の河原仙英師は開教五年四十三才にして此の土となられた。一九四一年十二月真珠湾爆撃によりハワイの開教は閉ざされ、殆どの開教師は監禁者として(家族も同様)米大陸に抑留されること四ヶ年。帰布して其の寺の復興を計る。別院を始め他の九ヶ寺も夫々、移轉、新築、改築、日本語学校再開に當る。開教当時を偲びつつ開教師夫婦は檀信徒と一体となり、血と汗と涙によって次代の為にとこれを達成したのである。

一九八〇年に入り日本の経済が

現在一世は殆どなくなり又二世も老境に入り時代は三世に移り六世まで数える様になった。従って日本語の使用も少くなり殆ど英語に代り同時に布教に於ても大轉換期を迎えている。

このままでは、ハワイの仏教は次第に衰微して死んでしまふのではないかと二世仏教徒は心配している。移民仏教、日本仏教はなくなって、時代に相応しい布教方針を打ち立てその指導に當る人材が排出すれば曹洞禅仏教は決して亡くならず国際仏教として大いに発展することになるかもしれないと思はれる。数日前二日間に涉り当地に於て第四回U・H・SOTO信徒大会が開催され今後のハワイ・アメリカ曹洞禅仏教について討論が行われたばかりである。ハワイは今、開教師の人材打出に、開教師と檀信徒一丸となって取り組んでいる。日本に於ても大いに関心を持ってもらいたいものである。

特集

第四回ハワイ・北米檀信徒大会開催される！

去る十月七日(土)、八日(日)、の両日、ハワイ・オアフ島に於いて、第四回ハワイ・北米檀信徒大会が開催された。

会場は、観光客で賑わうワイキキとは反対側(北側)にあたるタートルベイ・ヒルトン・ホテル。ハワイ八カ寺、北米三カ寺の開教師、檀信徒総勢百五十名が一同に会し、「これからの自分たちの寺、そして仏教」について熱い議論が繰り広げられた。

ハワイの日系仏教は今

そして未来は……！

第一日目

開会式&基調講演

午前十時より開会式が、ハワイ開教総監・松浦玉英師の導師のもとで執り行われた。スケジュールに従い、松浦玉英師、北米開教総監・山下顕光師の挨拶の後、早速、ハワイ大学宗教学部部長・田辺ジョージ博士により、「日系仏教の変容」と題し、基調講演が行われた。

田辺教授は、①仏教の国際化(インターナショナルイゼーション)、②仏教の

アメリカ化(アメリカナイゼーション)、③仏教の日本化(ジャパナイゼーション)の三つのポイントについての見解を述べられ、二十一世紀のハワイ仏教の将来について提言された。要約は次の通り。

「日系仏教寺院がだんだん衰退しつつあることを見るのはつらいことですが、死は再生を意味することだと理解すべきです。だからアメリカにおける仏教の将来は、日本の型の仏教ではなくアメリカ仏教として再生されるかどうかにかかっています。インドで生まれた仏教が中国、韓国、日本と伝わった後、それぞれに型を変え、中国仏教になり、韓国仏教になり、日本仏教になり生き延びてきました。ですから、アメリカでは日本仏教はアメリカ仏教にならなくてはならないのです。戦前からハワイの仏教は国際化に向かっての活動をしてきました。正法寺別院をはじめ



左からアーノルド・ヒウラ氏、田辺教授、シャクティ・カーン師、藤谷

とではありません。言葉、習慣を変えたからと言って、アメリカ仏教にはなりません。大事なことはアメリカ的に変容することです。現在、異なった少数民族のグループは各々の特徴を主張しています。例えば「アフリカン・アメリカン」という言葉は、「ブラック(黒人)」という言葉に変わって使われるようになっていきます。

本派本願寺の建物は、日本的なものでなくインド的なユニークなものです。つまり、『どのように宗派の違いを取り除き、無宗派の仏教を確立するか』というところに重点を置いてきたかということ。一九三一年には、一二五の日曜学校がハワイ仏教寺院に設立され、仏教の教えに基づいた教育がなされてきました。最近ではセクシャルハラスメントや寺院における男女差別の問題を取り上げるグループもできています。

アメリカ仏教になるということは、すべてアメリカナイズすることではありませぬ。言葉、習慣を変えたからと言って、アメリカ仏教にはなりません。大事なことはアメリカ的に変容することです。現在、異なった少数民族のグループは各々の特徴を主張しています。例えば「アフリカン・アメリカン」という言葉は、「ブラック(黒人)」という言葉に変わって使われるようになっていきます。ハワイ大学では日本語を学ぶ大学生が増えていますが、堂々と先祖の使った言葉を学ぼうという姿勢が見られるのです。また、盆踊り、太鼓(ワイア龍仙寺の駒形夫人フェイさんの指導するハワイ祭太鼓は大変有名)、茶道、華道、マーシャルアーツといった日本文化に親しむ若い人たちが増えています。そしてそのような日本文化に興味を持って若人たちが寺にやってくる。ですから私たちは、大切に保持しなければいけない伝統は何かを考えなければいけないと思います。曹洞宗の場合は、坐禅は大事な教えだと思えます。最後に私たちはハワイの他のグループ、ベトナム、韓国、タイなどの仏教徒と協力しながら国際化をはかり、アメリカナイゼーション、

ジャパナイゼーションを強調しておきたいと思います。」

パネルディスカッション

夕食をはさんで午後からは、総監部シニア・ニミスター・町田時保師の司会進行で、パネルディスカッションが行われた。パネリストはハワイ元本派本願寺総長（ハワイ二世）・藤谷ヨシアキ師、総監部現地養成開教師・シャクティ・カーン師、元ハワイヘラルド新聞社編集長・アーノルド・ヒウラ氏が、田辺教授の講演を受けて、それぞれの立場でハワイの日系仏教寺院の将来について意見を交換した。

藤谷師は、「仏教の本質的な教えを理解することが重要であり、現地の言葉で話すということが大事である。コミュニティーの中で英語を使うことは言うまでもないが、ハワイのキリスト教の教会ではハワイ土着の言葉をうまく使って教えを広めている。仏教徒は最初は突っ走っても急な坂道になると止まってしまおうスカイロケット（流星花火）のようであったが、堅実に一步一步努力する登山者になる必要がある。」と。

ヒウラ氏は、田辺教授の3つのポイントにハワイアンナイゼーションを付け加え、宇宙飛行士・故鬼塚エリソン大佐（パンチボールで行なわれた仏式の葬儀の導師を藤

谷師が勤めた）、そして有名な裁判官の仏式の葬儀に参列した印象から、儀式とか型とかは余計なもので、心の有様が大切である。そして仏教の本質を知ることが強調した。

カーン師は、「歴史的に見て仏教は各国でその土地土地の神を取り込んできたが、ハワイでも必要である。アメリカナイズするためにはアメリカ社会の常識を寺の中に取り入れなければならない。日本のようなお寺であってはいけない。ミーティングなどは英語で、法要は日英両語ですべきである。子供のサマーキャンプなどをし、仏教の価値を教えるようなアクティビティーを考えたり、アメリカ人

の開教師を養成することが急務である。」と具体的に提言された。その後この会議に出席した人たちは、ポリネシアン文化センターにバスで移動し、ディナーとショーを満喫し、第一日を終えた。

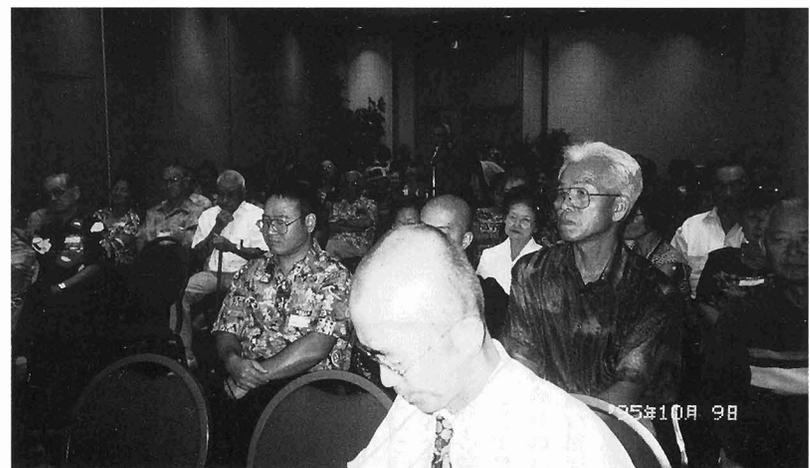
第二日目

午前九時より、ワヒアワ龍仙寺主任開教師・駒形宗彦師の司会進行のもと、ディスカッション・リーダーにハワイ大学歴史学センター主任・西本ウォーレン氏、社会学リサーチ研究所員・西本ミチコ氏が選ばれ、会場の参加者に「自分とお寺のかかわり」「どうして今、寺のメンバーになっっているのか」「これからのお寺はどうあるべきなのか」などを問題提起し、話し合いがされた。

はじめに、西本夫妻は「クリスチャンの子供たちは食前にお祈りをするが、どうして私たちがしないのか？」と子供から尋ねられ、自分たちの宗教について考えるようになった。それから会場

の参加者たちにマイクを向けると、お釈迦様の教え、あるいは道元禅師の教えに触れてというのではなく、両親が寺のメンバーで連れていかれたと

か、友達が日本語学校に行っていたとか、それぞれの「寺との関わりあい」など会場から発表された。しかし、一般の日系人にとってお寺が私たちに何をしてくれるのか？お寺に行くきっかけがない、お寺は居心地が悪い、お坊さんとのコミュニケーションがとれない、などの問題が現実にあるようである。議論の中で見えてきたことは、お坊さんのリーダーシップがいかに大事かということだろう。アクティビティーもお寺に来させるきっかけとしては大事であるが、精神



会場からの質疑

的な依りどころとしての居心地のよい環境作りも心がけなければならないということである。そして、ハワイに根ざした自分たちを受け入れてくれる仏教というものを考えていかなければならない。

午前でこの会議は終了した。その後、会場を移し、アロハ・ランチオン（昼宴会）が催され、エンターテインメントに『ハワイ祭太鼓』の演奏が披露された。今回のコンファレンスのテーマ「どのように日系仏教寺院は変わっていくべきか」というものを私たちの視覚を通して、ハワイ祭太鼓の皆さんが見せてくれた。彼らは、クム・フラというハワイの伝統的な踊りの先生から歴史や実技を勉強し、日本の伝統である太鼓の演奏の中に取り入れ、独自の演奏形態を作るよう心掛けているとのこと。大変感銘を受けた。ハワイの曹洞禅がこれから生き残る象徴的な演奏であった。（事務局）

（この記事を書くにあたって、ワヒアワ龍仙寺・駒形宗彦師、北米開教師・サージェント・慈芳師にご協力を戴いた。）

寺院 & 開教師



- ① ホノルル正法寺
- ② 一九一三年
- ③ 松浦玉英
- ④ 山形県宝林寺
- ⑤ 一九三六年



- ① マウイ満徳寺
- ② 一九〇六年
- ③ 葉貫成悟
- ④ 福島県石雲寺
- ⑤ 一九九三年



- ① ホノルル正法寺
- ② 一九一三年
- ③ 町田時保
- ④ 埼玉県東昌院
- ⑤ 一九五二年



- ① ヒロ大正寺
- ② 一九一六年
- ③ 吉田宏徳
- ④ 静岡県万松院
- ⑤ 一九九四年



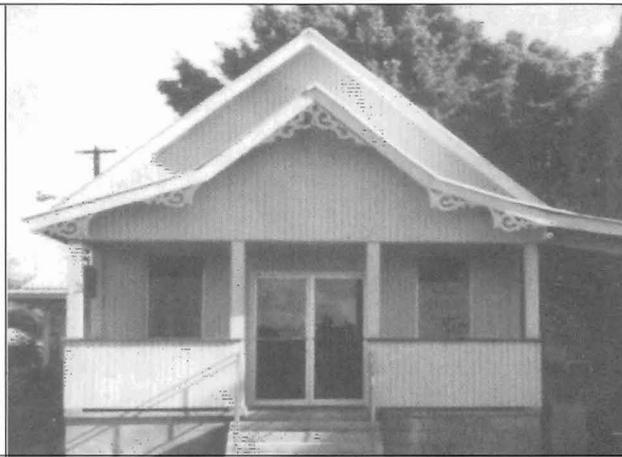
- ① ホノルル正法寺
- ② 一九一三年
- ③ 酒井俊晃
- ④ 長野県無量寺
- ⑤ 一九八七年



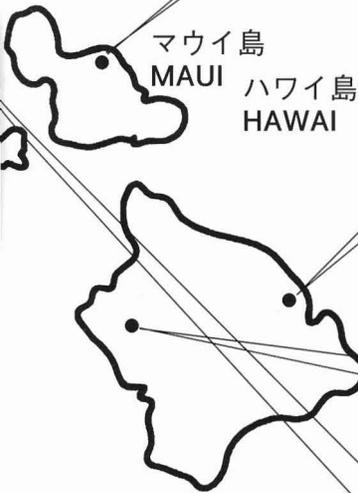
- ① コナ大福寺
- ② 一九一四年
- ③ 田宮隆児
- ④ 新潟県興源寺
- ⑤ 一九八八年



- ① モロカイ弘誓寺
- ② 一九二七年
- ③ 町田時保
- ④ 埼玉県東昌院
- ⑤ 一九五二年



イ諸島

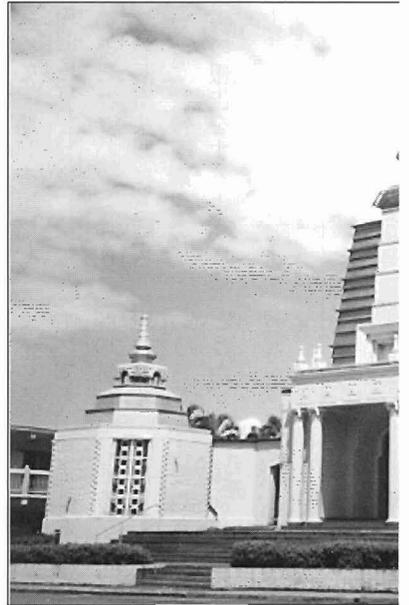


ハワイ曹洞宗開教のあゆみ
一九〇三年(明治三十六年) 本山派遣同
抱親瑠使としてハワイに渡った大島景の河

ハワイ曹洞宗



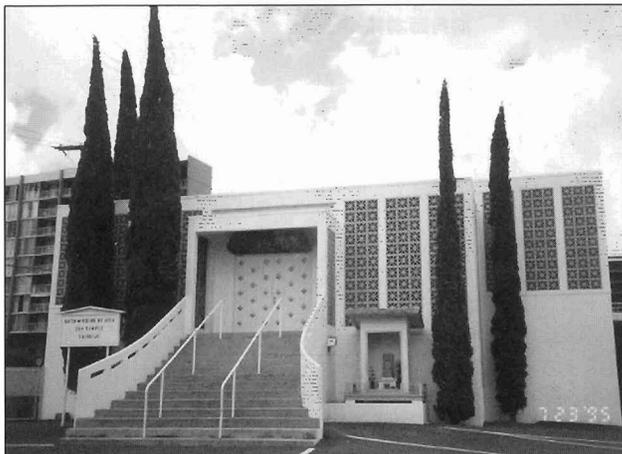
- ①カウアイ禅宗寺
- ②一九〇三年
- ③三好晃一
- ④北海道高沢寺
- ⑤一九六七年



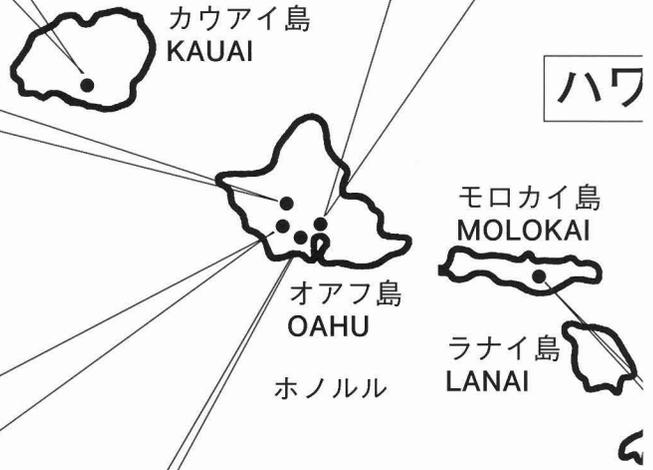
- ①ワヒアワ龍仙寺
- ②一九〇四年
- ③駒形宗彦
- ④新潟県龍谷寺
- ⑤一九七〇年



- ①ワイパフ大陽寺
- ②一九〇三年
- ③水野克彦
- ④静岡県積雲院
- ⑤一九九四年



- ①アイエア大平寺
- ②一九〇四年
- ③長谷川俊道
- ④群馬県瑞巖寺
- ⑤一九九五年



原仙英師、管良雲師の開教以来、実に九十数年の歲月が流れた。河原師はオアフ島に、管師はカワイ島で布教を開始、両師に続いてハワイに渡った開教師により、明治の末までに四カ所の布教所が、荒土に芽吹く雑草の如く逞しく開かれた。こうして、大正のはじめにはホノルル仮別院を含め三カ寺、昭和初期にも三カ寺が建てられ、その後、第二次世界大戦という苦難をも、檀信徒の篤い信仰に支えられ乗り越え、計十カ寺の今日のハワイ曹洞宗を形作ったのである。ここでは、エワ宗洞寺を除いた九カ寺の曹洞宗寺院、並びに開教師を紹介する。

①寺院名 ②開創年 ③開教師名 ④僧籍地 ⑤赴任した年

宗門開教の諸問題について

特別寄稿



S. Z. I. 会長 松 永 然 道

求められたが、ご承知のように海外開教地での問題は依然として大きく、複雑であり、簡単な報告で済ませられるようなものではない。比較的最近感じている事のみ二、三記してみたい。

(一) 開教師の滞在ビザの問題ー現在新しく開教師として北米に赴任する時得られるステイタスは就労ビザであり、これは開教師のみ交付され家族にはその資格がない。宗門当局と総監部、現地寺院教団側、開教師の更なる話合いが待たれる問題である。

(二) 開教及び開教師という言葉葉の問題ー海外の宗門へ教えを伝える者を開教師と一般に呼んできたが、伝道師、伝道教師が増えてきており、南米においては修道師という実際に開教師とまったく同じ仕事をしている者までいる。宗制上ははっきりしていても、現地においてはその間の区別さえ出来ていない様に見える。はたして現在開教という言葉さえ妥当なものなのかどうか、宗門の海外伝道の姿勢

をも含めて検討すべき時にあるのではないかと感じた。

(三) 仏教二千五百年以上の歴史には、当然その中に含まれる。多種多様な文化的な形態が見られる、仏法の真髄は変わらなくても、やはりこれからのアメリカ仏教も日本側から見た場合許容し難いものが多く出て来るはずであり、現地側は自分達の習慣の上に立っての日本側の相入れないものに悩む事であろう。その整合制をどのように考えていくべきなのか大きな問題と思われる。

(四) 従って、宗門の開教方針の確立と現地での状況に立脚した将来の方向制を見極めるべき指導者(複数)が必要と思われる。その他細かい点を数え上げれば、まだ大小様々な問題がでてくる。共生の社会へ大きく変わろうとしている世界状況にあつて、宗門のおかれている立場も、苦渋に満ちたものを受けとめざるを得ない時が来るかも知れないと思つて帰つて来た。

海外トピックス

前角師本葬L.Aで厳修!



前角師本葬

五月十五日、訪日中急逝されたロサンゼルス禅センター主任開教師・前角博雄師の本葬が、去る八月二十七日、北米ロサンゼルス・ジャパンアメリカ劇場でしめやかに執り行われた。グラスマン徹玄師をはじめとするお弟子たち、北米開教師、日本からは宗務庁、永平寺、総持寺、そして法縁の方々の方々の参列により無事に終えることができた。

北米開教師会議・寺庭婦人会開催!



北米開教師会議・寺庭婦人会

八月二十四日から三日間にわたり、北米開教師とその夫人三十六人が参集し、第四回北米開教師・寺庭婦人会会議が開催された。今回は、宗務庁から佐藤良彦教化部長はじめ、永平寺、総持寺からそれぞれ代表を迎え、意義ある会議となった。寺庭婦人会では、昨年ロングビーチ仏教会・穀蔵夫人のデザインのTシャツを全米各地で販売し、収益の一部をサンフランシスコのベイホスピスへ寄付したこと報告がされた。そして今年度は、グリーディングカードとクリスマスカードの販売を行い、同様にホスピスの援助に当てていくことになった。また、ペニー(約一円)運動と称し、ペニー募金も併せて活動展開している。寺庭婦人会ではこの小さな運動が、仏教の教えを通じ、一人でも多くの人々の役に立つことを願いつつ、頑張っている。

南米別院仏心寺本堂落慶法要円成!

日本とブラジルの修航通商航海条約締結百年目にあたる今年、南米別院仏心寺本堂落慶法要が九月七日、盛大裡に執り行われた。日本の宗務総長・大竹明彦師、永平寺監院・南沢道人師をはじめ多くの寺院、並びに参拝団一行、北米・禅宗寺の参拝団一行、そして現地の檀信徒の人たちの参加で賑やかに祝賀することができた。南米総監・森山大行師はこの度の本堂並びに庫裡ホールの完成を成し遂げ、任務を終え帰国した。



南米別院仏心寺本堂

北米開教師・横井泰賢師 アイオワシティー禅センターへ!



北米開教師・横山泰賢師は、これまでミネソタ禅メディアセンター・センター主任・奥村正博師を補

佐していたが、故片桐師とも法縁のあるアイオワシティー禅センターに移動し、指導教化にあたることになった。アイオワシティー禅センターは二十名ほどの小さなグループで、約二十年まえ、故片桐大忍師の指導が始まり、ここ数年は、奥村正博師によって指導が行われていた。

SZII主催

ハワイ・マウイ満徳寺九十周年慶讃法要参拝ツアー募集!

期日 平成八年十一月一七日前後

国内インフォメーション

ワン・ボウル・ネットワーク ーク通信第三号発刊!

ワン・ボウル・ネットワーク通信第三号が、十月二十五日発刊された。今号はミネソタ訪問特集で、原田道一師とともに訪米した長崎県佐世保市青眼寺住職・水町宗典師の「根張りの風で土となる」と題した紀行文が掲載されている。



左はし、水町師、右側から4人目、原田師

水町師は、「坐禅、作務、そして托鉢を通して、日米双方ともに行うことによって相互に交流し、お互いに学びあい、共鳴し、共に生きるということの大切さを痛感した」とまとめている。その他に原田道一師の「ワン・ボウル・ネットワークのめざすもの」、サンフランシスコ在住のオラマス・サンドロ師の「茶と禅」などの寄稿文が掲載されている。興味ある方は、事務局(05 771781 1080)へご連絡下さい。

※ワンボウル・ネットワークとは、一鉢(托鉢用度量器)を縁とした草の根運動です。地球禅仏教の原点を釈迦牟尼世尊が示された托鉢「頭蛇行」の実践に学び、草の根の交流を願うものです。特に、ミ

「世界宗教者平和の集い」懇親の夕べ

ネソタ禅センターの道友を精神的に、物質的に援助しながら、今我々が、お互いの初心を確かめあい独坐に円通することを目的とします。



「世界宗教者平和の集い」懇親の夕べ・挨拶される太田大稜師

去る八月九日(水)、一九八七年から世界宗教者平和の集いを主催している聖エジディオ共同体を代表して、アゴスチーノ・ジョバンニョーリ博士(ミラノ聖心大学教授)とジノ・パターリア師(司祭)が来日された。最初からこの世界宗教者平和の集いに参加している峰岸正典師のほからいで、東京駅北口の国際観光ホテルで懇親の夕べを持つことができた。

SZ I 研究会開催される!

去る九月十二日(火)、十三日(水)にわたって、伊香保・ホテル天坊にて元海外開教師有志が集まり研究会が行われた。SZ I 創立三年目を迎え、今後一層進む国際化の中で、会が果たしていく役割をもう一度確認すると共に、具体的な開教師支援や活動政策というものを議論するためであった。

開会式に引き続き、事務局からの活動報告、秋田新隆師(元ハワイ開教師)、加藤孝正師(元ハワイ開教師)の意見発表が行われた。両師の発表の要旨は次の通り。

意見発表

【秋田師】

帰国後、海外での経験を日本で如何に活かしていくか、また、日本の地域社会で何ができるか

を考えながら布教活動を現在行っている。
具体的には地域と共に国際交流を進めている。

。将来は海外開教地における宗門の教育機関が必要であり、現地に根差した開教を進めなくてはならない。

【加藤師】

。開教師育成の為、瑞応寺の同安居会にてブラジルへの留学僧制度を発足したが、応募者がいない現状である。
。国際化する現代において、SZ I が内外の宗教情報機関になつて欲しい。

。休憩をはさんで、松永会長を座長にディスカッションが行われた。はじめに松永会長より海外の開教師不足に対しての派遣問題点について説明がされた。その後、参加者からいろいろな意見が出された。要点は次のとおり。

ディスカッションメモ

。英語だけでなく各国語を視野に入れた活動を考える。

。宗報等にも毎月SZ I の記事を載せてもらうよう働きかける。

。永平寺の金子西堂老師が「我々は葬式をアルバイトにしないか?」

今のお坊さんは葬式を本業にしてしまった。この本業のままにしておくと二十一世紀には日本のお寺はなくなってしまう。」

と言われた。死んだ人を相手にしては宗門の活性化などはありません。

。海外開教地には生きている人への布教があった。

。SZ I はある一面において自己啓発のできる場であって欲しい。

。ホスピス・ケアの情報をSZ I でまとめてほしい。また日本で実現できないか?

。浄土宗では、小人数の海外スタディー・ツアーを企画し、病院

ケア・ホーム等を現地開教師と共に経験してもらい、開教師希望者を育て、海外開教に興味を持ってもらう努力をしている。

。開教師支援の具体的な方向として、徒弟への支援をも考える必要がある。

。海外の仏式結婚が逆輸入できないだろうか。

。年間行事として、勉強会(全員

全体)、総会、研究会(事務局、

元開教師中心)の三本立てにしていく。

。若い僧侶で海外に出たい人々は何を考えて出ようとしているのか。海外開教を通して自己啓発の場としていきたい。教育機関としての機能を持たせる。

。会報は読みたい人には無料で配る。購読料はとらない。

その後、活動政策提案が書記・飯島師から提出され、その提案にそって、提案事項の修正、検討を行い研究会を終了した。懇親会では、

海外開教の経験、失敗談等をお互いに語り合い、楽しいひとときを過ごした。翌朝、最終意見をいた

だき、まとめは事務局が整理して後日お知らせすることで了解を得藤川副会長の挨拶で閉会となった。

会費納入のお願い

平成七年度の会費未納の方は、年会費一万円を左記の郵便口座にお振込みください。

郵便口座名義

SOTO禅インターナショナル

口座番号

〇〇一〇〇一六一六一一九五



SZ I 会報はリサイクルペーパーを使用しています。

SZ I (SOTO禅インターナショナル) とは?

1. SZ I とは

SZ I は海外開教経験者と共に1993年(平成5年)2月に発足し、両大本山と宗務庁から助成をうけ、ボランティア・スタッフにより運営される曹洞宗の国際布教、及び交流を推進する団体です。

2. SZ I の目的

国際化が益々急速に進展する現代社会で、異なる文化を持つ人々とのふれあいの場が増えています。そして今後、より一層国際間の交流と相互理解が切実に求められ、我々は、そのためにいかなる小さな努力をも惜しむべきではありません。この様な時代背景のもと、SZ I は海外寺院への支援と国内外の情報交換と共に、曹洞禅の実践を通し、海外の人々と友好親善の輪を広めることを目的とします。

3. 活動

- ・国内外の情報提供会報の定期的発行(年3回)
- ・海外との交流海外スタディーツアー実施
- ・研修会等への講師派遣(海外寺院の様子、婦人会活動、行事運営等、国際化社会での仏教、海外から見た日本仏教、その他、海外布教関係)
- ・開教師への支援